

EU Indicators

欧州経済指標コメント：ユーロ圏の銀行貸出調査

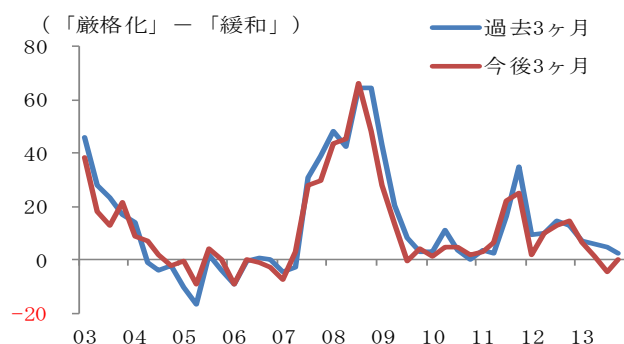
発表日：2014年1月31日(金)

～今後は包括査定の影響から解放～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

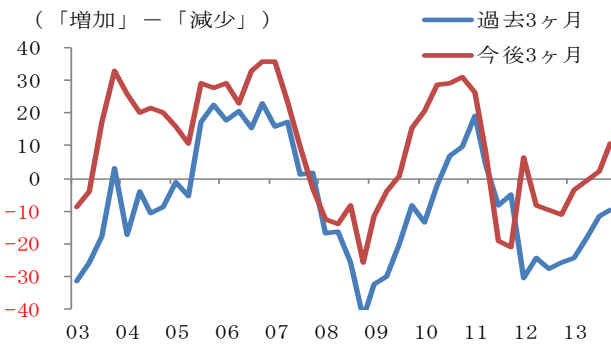
- 1月のユーロ圏の銀行貸出調査（調査時期は昨年12月13日～1月9日）は、過去3ヶ月に企業向けの融資基準を「厳格化」したとの回答割合が「緩和」したとの回答を引き続き上回ったが、「厳格化」と「緩和」の回答の差（数字が低い方が改善）は前回：+4.6→今回：+2.2に低下し、厳格化の度合いは縮小傾向にある（左図）。先行きは、過去3ヶ月：+2.2→今後3ヶ月：+0.3に一段の改善を見込んでいるが、4年振りに緩和の回答が上回った前回調査（▲4.7）からは悪化した。
- 企業規模別の融資基準判断は、中小企業向けが前回：+3.5→今回：▲3.4→先行き：▲8.6、大企業向けが前回：+5.0→今回：+2.4→先行き：+2.3と何れも改善を見込むが、とりわけ中小企業向けの改善が目立つ。融資期間別には、短期資金が前回：+3.4→今回：▲1.5→先行き：▲5.4、長期資金が前回：+4.6→今回：+4.6→先行き：+2.0と、短期資金が改善を牽引している。
- 過去3ヶ月の企業の資金需要は、「増加」の回答が「減少」を下回っているが、減少の超過幅が前回：▲11.8→今回：▲9.8に一段と縮小した（右図）。今後3ヶ月の資金需要は、6四半期振りに増加超に転じた前回：+2.2→今回：+10.5に一段と拡大した。先行きの資金需要回復を見込んでいる。
- 金融環境の改善を受け融資基準の厳格化の度合いが後退している。大企業向けの出遅れが目立つのは、銀行包括査定の対象となる大手行が、融資基準の緩和に消極的なことを反映している可能性。査定対象となる2013年12月末を経過したことで、数四半期以内に融資基準は緩和超に転じる公算が大きい。

■ユーロ圏：銀行の融資基準



出所：欧州中央銀行

■ユーロ圏：銀行の資金需要



出所：欧州中央銀行

■ユーロ圏の銀行貸出調査

			2011			2012			2013				
			2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
融資基準	企業全体	過去3ヶ月	2.4	16.1	34.8	9.5	9.8	14.6	12.9	7.4	6.0	4.6	2.2
		今後3ヶ月	6.6	22.0	25.2	2.2	9.8	12.7	14.9	6.5	1.4	-4.7	0.3
	中小企業	過去3ヶ月	3.5	13.8	28.1	0.8	6.1	11.0	12.4	7.1	6.0	3.5	-3.4
		大企業	過去3ヶ月	3.0	18.6	43.7	16.6	16.4	16.9	14.6	4.1	3.2	5.0
	住宅ローン	過去3ヶ月	9.1	18.3	29.1	17.4	12.7	12.7	17.9	14.1	6.9	2.5	-1.3
資金需要	企業全体	過去3ヶ月	4.1	-8.1	-4.9	-30.4	-24.5	-27.6	-25.7	-24.3	-18.1	-11.8	-9.8
		今後3ヶ月	8.0	-19.3	-21.0	6.5	-8.1	-9.6	-10.9	-3.6	-0.8	2.2	10.5

注：融資基準は「厳格化」－「緩和」と回答した割合の差。資金需要は「増加」－「減少」の差。

出所：欧州中央銀行

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。